

大塚ホールディングス株式会社 2016年度第1四半期決算

質疑応答要旨

2016年5月13日

Q1: 2016年度第1四半期の営業利益実績が既に上期の計画を上振れている。さらにロンサーフの欧州承認マイルストーンが2016年4月に約100億円計上される予定となっているが、今後上期の業績予想を見直すのか？

A1: 2016年度第2四半期にはロンサーフの欧州承認マイルストーン約100億円などの計上を見込んでいるが、研究開発費の期ずれなども生じているため、詳細な内容を検討した後に上期見込みの見直しを行う予定。通期見込みに関しては、上期見込みとNC関連事業の第2四半期以降の業績等を考慮したうえで見直しを検討する。

Q2: 営業利益が上期の計画を上振れている要因について、研究開発費の費用計上の期ずれの影響が大きいのか？

A2: 営業利益が上振れている要因としては、研究開発費の進捗の影響もあるが、コスト効率化の進捗、NC関連事業において米国サプリメント事業、ポカリスエットの原価率が改善したことも寄与している。

Q3: NC関連事業の原価率の改善は、季節要因ではなく構造的に収益構造が改善している結果と理解してよいか？

A3: 2016年度第1四半期における米国サプリメント事業の原価率の改善は、通期では平準化される見込み。ポカリスエットの原価率の改善については、通期で継続する見込み。

Q4: ロンサーフの売上は、計画を大きく上振れているが、元々の想定よりも好調という理解でよいか？

A4: はい、計画以上の進捗です。

Q5: レキサルティの売上は想定通りと理解してよいか？

A5: 概ね計画通り。

Q6: 米国エビリファイの2016年度第1四半期の売上実績110百万ドルは概ね計画通りと想定されるが、過去実績において米国の1-3月は時期的に売上が低い傾向があるため、通期の売上は計画を上振れるのでは？

A6: 2015年度は処方箋数量の落ち込みが緩やかであったが、2016年度第1四半期の状況を見ると、処方箋数量が低下し、前回決算でお話した通りgross to netが拡大してきているため、現時点で通期計画は妥当と考えている。

Q7: ルンドベック社とのグローバルアライアンスの対象化合物として、治療抵抗性の統合失調症を対象としてP3に移行したLu AF35700を導入するか？

A7: 現時点では導入権利のある3製品の中には入っていない。ルンドベックとの契約上は、P2終了後に取得する権利があるため、P2終了時点で導入の決定をしなければいけない訳ではない。

Q8: TAS3681について、既に上市されている同様の作用メカニズムを有する薬剤との差別化点は？

A8: アンドロゲン受容体の低下作用を有する点が特徴。

Q9: 中枢神経領域で更に製品買収を行う資金余力と意欲はあるか？

A9: 2016年度は収益がボトムになる厳しい時期と認識しており、現時点では直近で買収した会社や製品の価値を最大化させる施策を前向きに進めていくということが最重要と考えている。非常に良い買収案件がリーズナブルな価格であれば検討の余地はあるかもしれないが、現時点では考えていない。

Q10: 研究開発費や販売管理費などのコストが計画比で大幅に未消化となっている要因は？単なる費用計上の期ずれの影響なのか？それともコスト改善策が順調に進んでいるのか？

A10: 研究開発費が未消化である要因については、費用計上の期ズレの影響、優先順位の見直し、間接費の効率化、及び為替の影響がある。その他の経費に関しては、広告宣伝費などを使用する可能性はあるが、全体的にはコスト効率化・最適化が順調に進捗している。

Q11: 大腸がんにおけるロンサーフの浸透度についてご教示下さい。まだまだ浸透余地はあると考えているか？

A11: 大腸がんの3次治療以降については、貢献できていると考えている。ロンサーフの主な副作用が血球減少であり、自覚症状系の副作用が少ない点が選ばれている理由のひとつとして考えている。処方浸透スピードは速いと認識しているが、処方のすべてをカバーできている訳ではない。

Q12: ニューデクスタの処方箋推移をみると、伸びがスローダウンしているように見えるが、短期の処方箋はあまり気にしなくてもいいか？

A12: 短期の処方箋推移は様々な要因で変動するため、長期で見れば大体のトレンドがつかめると思う。現時点では順調に伸びていると考えている。

Q13: ロンサーフの欧州承認時マイルストーンは元々上期に計上される予定であるため、それ以外のコスト発生のタイミングなどの要因を加味して通期計画の修正を検討するという理解でよいか？

A13: コスト発生のタイミングに加え、好調なNC関連事業の夏場の販売状況をみながら通期計画に関しても見直しを検討する。

Q14: レキサルティの売上の大部分は大うつ病補助療法に対する処方によるものと考えてよいか？

A14: 統合失調症の処方も順調に伸びているが、大部分が大うつ病補助療法に対する処方と考えていただいて構わない。

Q15: 非常に将来性があると思われるデジタルメディスンについて、FDAから審査完了報告通知（CRL）を受領したが、今後どのような展開を考えているか？

A15: 現在、CRLの対応のためFDAと協議を進めているので、もうしばらくお時間をいただきたい。成功すれば、様々な可能性について順次拡大したいと考えている。

Q16: TAS3681は先行品があるので、前立腺がんからの臨床試験実施ではなく、先に乳がんを実施するという選択肢はなかったのか？あえて前立腺がんを実施する理由は？

A16: 乳がんでの開発も重要なアプローチとは思っているが、次のステップと考えている。まずは前立腺がんの有効性を示すことを優先したい。